



福井商工会議所 青年部会報

FUKUI

No. 50

第50号 平成3年6月1日発行

Young Entrepreneurs Group of
The Fukui Chamber of Commerce and Industry

発行所

福井商工会議所青年部：福井市大手3-13-1
13-1, 3-Chome, Ohte, FuKui-City, JAPAN 〒910
TEL:0776-23-8111 FAX:0776-23-8475

発行者：竹越治美
編集者：真木康至

福居



さくら さくら

さくら咲き初め 咲き終り

なにもなかったような公園

俵 万智

「FUKUI さくらルネッサンス事業」

モニュメント除幕式及び桜会開催！！



平成三年四月十四日（日）午前十時より足羽山遊園地（ミニ動物園）にてモニュメント除幕式典を行いました。例によって例の如く肌寒く小雨になってしまった。いままでの屋外でのイベントでの雨、植樹式のみぞれ、あられ、第一回桜会（平成二年四月）の強風に雨など青年部の屋外での活動はつねに悪天候のもとで行ってきた。しかし今までのことを思えば、これくらいなんのその、と自分に言い聞かせた。やっぱりこの日を予想して大型テントを用意したのは正解だった。定刻の十時には青年部五十数名を始め、公園緑地課の方、その他市関係者、造園業会、植樹された市民の方々、報道関係者の方々

の見守るなかで、私が開会宣言をし小幡雅好福井市開発部次長が「市制百周年を記念したこの事業で、足羽三山に桜が植えられた。今後は市民の潤いの場として県内外に誇れる桜の名所となるよう努力したい。」と大武市長のメッセージを代読。続いて竹越治美青年部会長が桜ルネッサンス事業の紹介「老齢化が進み足羽三山の桜は、後数年の寿命といわれていた。今回の植樹で桜は次の世代へ受け継がれ毎年花を咲かせ、市民に喜びと希望を与えてくれる。」と式辞。次に八木熊吉福井商工会議所会頭にも祝辞をいただいた。続いてモニュメントに彫られた短歌「さくら さくら さくら咲き初め咲き終わり なにもなかつたような公園」の作者 俵 万智さんが桜に合わせたようなピンクのスーツで登場し、「私の短歌集『サラダ記念日』の中から選ばれて、うれしく幸せです。さくらルネッサンスの事業

は発想がユニークですね。高校時代によく足羽山に足を運びましたが、これからも故郷の山に足を運びたいと思います。」と祝辞を述べられた。打合せではこれで終わりだったが、私の思いつきで急遽、モニュメントに彫られた短歌（俵 万智さん直筆）をご自身で披露していただいた。万智さん快く詠み上げてくれた。その後モニュメントの設置場所（平成元年十一月十九日植樹式の記念代表植樹の近く）に移動。ここにはフルートの音の方（演奏・プラ イム）に歩いていくと、自然にたどりつくという演出。除幕は来賓五名により行った。各人思い思いに観賞し、記念撮影等、報道関係者のフラッシュがたかれる。続いて大テントの所に戻って、さくらミニコンサートが開かれた。プライムの三名によるフルート演奏、そして佐沢尚友トリオ「ドラマ、ベース、ピアノ」による演奏で式典を盛り上げてくれ

た。あとかたづけの後、青年部会員は俵 万智さんを囲んで、昼食をとりながらひとときの語らいを楽しんだ。飾り気のない可愛らしい女性で、会員とすぐ打ちとけ話はずんだ。当日桜は雨風でほとんど散ってしまっていて、後一日咲いていくくれたらという思いだった。万智さんも日本の国花として親しまれ、古くは「花といえば桜」を指したというほど日本人にとって桜への思いは深い。地球環境破壊を正義の味方みたいに追及するのも良いが、人それぞれ自然と親しみ、大事にし、自分の心の中にさくらの美しさを抱いて生きていきたい。咲くまで、そして咲いてから、さらに散った後それぞれに風情があり、まぼろしのような感じが魅力的で、いろんな思いを抱かせるとの思い入れを口にしていった。先人達、そして今回ご協力を頂いた方々の意志が、桜の若木が順調に育ち、これから足羽三



山に一斉に咲きほこりメッセージとなつて、次世代へ受け継がれていくものと思えます。最後に俵 万智さんからこの事業を祝して、色紙を頂きました。折りたたみ傘を たたんでゆくように 一九九一年四月十四日 福井商工会議所青年部様 皆様のご協力ありがとうございました。 さくら委員会 荻安 浩道

5月21日三和建材は変わりました。

新たな飛躍のはじまり。

アロック・サンワ株式会社

取締役社長 石橋正人

本社/ショールーム 〒910 福井市開発5丁目315番地
TEL.0776-54-2640(代表) FAX.0776-54-4144

Life Fitness Company
AROC・SANIVA

いいものにこだわります。 サイン・POP・ディスプレイ・店舗用品の専門店

SHOP BOX 繁盛ヤ

●ディスプレイ ●パネル ●サイン
●POPの素材と製作 ●メニュー
●イベント企画 ●各種看板 ●旗
●ラミネート加工 ●各種印刷
●店舗内・外装企画施工 ●展示会
●カッティング文字 ●装飾用品

☎(0776)27-6770 福井市幾久町8-12
FAX(0776)27-6775

平成三年度 定期総会開催!



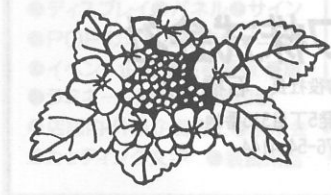
平成三年度 定期総会開催! 平成三年度 定期総会を開催した。 会員総数一八八名、出席会員七二名 (委任状出席者三七名を含む) 第一号議案 平成二年度 (平成二年度 月一日から平成三年三月三十一日まで) 事業経過報告並びに、収支決算承認の件

原案どおり承認可決した。 第二号議案 資格規定第二条変更の件 竹越会長より当青年部の事業拡大のため資格規定第二条第二項を変更したいと提案があり、原案どおり承認可決した。 資格規定第二条第二項年会費 会員一名 三六、〇〇〇円とあるを年会費 会員一名 五〇、〇〇〇円と変更する。 第三号議案 平成三年度 (平成三年四月一日から平成四年三月三十一日まで) 事業計画、収支予算案承認の件 原案どおり承認可決した。 定期総会終了後、福井市 商工労働部長 宮下一志氏の卓話が行なわれた。 商工行政の基本理念について説明があった。 一、その歴史的経緯 行政がまず最初に行なったのは、道路の整備、次い



都市景観の整備については昭和四〇年代に金沢市が全国で一番最初に取り組み、京都、高山がこれに続いていく。それに対して福井市は昭和六三年からスタートしたものである。 福井市は城下町としての歴史的背景と、九頭竜、日野、足羽の三つの河川と足羽山を始めとする山々、自

然的背景を調和させて行きたいと考えている。 三、都市景観の整備のハードとソフト ハードの面では行政空間(道路その他)と民間空間の調和、ソフトの面では市民の意識の改革を図る。 よって行政と民間との話し合いの場を作って行きたい。 など、前向きな話をいただいた。 最後に熊谷康心会員の報告「ピースポート世界一周を終えて」を聞き散会した。



委員長になって

●総務委員会

委員長 大須賀 廣美 毎月の例会(原則として第四水曜日に開催)を楽しく実のあるものにする為、会場を変えたり、他委員会との合同開催を考えています。多くの方の参加を!!

●地域活性化委員会

委員長 松木 延倫 目玉はハートランド。早めに役割分担を済ませ、再開発と桜を含めた実務は有能な副委員長に任せ、ハートランドの場所内容の定着をめざしがんばっています。

●市民の広場委員会

委員長 横山 秀明 青年部の事業としてその反響も各方面におよんでいます。市民の広場フォーラムも本年で第15回目を迎え、今回も市民の方々の意見の源泉したいと思います。

●会員委員会

委員長 中川 芳男

強烈な個性が生み出す独自のな思考は、理解しにくいものであるが、若者らしく議論を重ね、反発があるとも、信念をもって歩を進めよ!! 青年よ目を開け!!

●研修・交流委員会

委員長 加藤 幹夫 目玉事業として「実践異業種交流会」を開催します。悩みや夢を語りあい、会員相互の情報ネットワークを構築し、社外重役として学び協力しあいましよう。

●近畿ブロック運営研究会

実行委員長 松村 顕 次年度ブロック大会で福井に参集する各地青年部のかたに精一杯のおもてなしができるよう、本年度より内容を考えます。ああ、知恵が欲しい。よろしく!!

●広報委員会

委員長 真木 康至 年6回発行の青年部会報「福居」と一カ月に一度「所報」にも青年部活動を掲載中。今年度はさらに対外的PRにも力を入れ皆様の新鮮な情報をお待ちです。

平成3年度福井商工会議所青年部組織表

会長 竹越 治美 副会長 林 逸男 顧問 直前 順 顧問 古川 仲二 監事 野路 一美 佐野 政人 永井 弘明 淡島 洋 吉壹 修(県連会長) 全国商青理事 相談役 天野 小川 美 逸男 仲二

担当副会長	委員会	委員長	担当	副委員長	構成メンバー
副会長 大須賀廣美	総務委員会	大須賀廣美 (兼務)	例会企画	野阪 泰樹	青木 忠夫 尾廣 孝一 鎌田 博幸 北出 信二 熊谷 康心
			庶務	福田 恭太	神門 博 柴田 治是 角 善博 寺井 信雄 林 薫治
			組織	橋 敏夫	藤田 徳之 前田 公孝 松尾 誠一
副会長 五十嵐 長	広報委員会	真木 康至	渉外	田谷 仁一	稲垣 義孝 上野 秀治 白谷 慎一 小笠 睦 黒川 満代
			会報	小林 久則	清水 清一 友田 行則 中村 典幸 中山 晴夫 橋詰 雅敏
			再開発	竹下英二郎	森下 正志 森忠 勇喜 安田 昌弘 淡島 洋
副会長 五十嵐 長	地域活性化委員会	松木 延倫	ハートランド	竹内 幹男	池内 昭彦 大久保伸一 小川 睦夫 小林 敏博 齊藤 真一
			再開発	三村 貞二	坂川 優 砂河 正光 田中 義一 高間 貞行 玉村 将
			桜	竹下英二郎	平木 秀之 藤田 守一 前田 嘉重 牧野 利幸
副会長 中川 芳男	市民の広場委員会	横山 秀明	シンポジウム	杉田 政雄	荒井 清一 岩堀 哲 片岡 賢三 酒井 清章 高橋 俊男
			街づくり	河村 正治	津田 信夫 橋詰 善光 平鍋 順一 二本 和則 舟木 幸雄
			親睦	菊安 浩道	赤川 重信 浅井 新治 太田 公二 小沢 正実 木村 治
副会長 中川 芳男	会員委員会	中川 芳男 (兼務)	会員教育	江守 康利	木村 茂生 佐々木清史 竹内 秀光 土田 耕一 中村 佳一
			交流	中村 秀一	勝木 雅夫 玄内 豊和 佐山 茂 高田 茂喜 高比良義則
			研修	大久保徹朗	坪田 輝幸 永森 芳信 藤本 雅雄 三上 祐二
副会長 中川 芳男	研修・交流委員会	加藤 幹夫	国際	門嶋 久雄	南 修 村田 博宣 山口 透 市川 滋
			渉外	石橋 正人	荒木 伸男 磯川 賢一 小川 修 佐野 政人 野路 一美
			運営	藤田 勝己	善連 俊晴
近畿ブロック運営研究会実行委員長			松村 顕		

*委員長・副委員長は理事とする。

月	日	種 務	広 報	会 員	研 修・交 流	地 域 活 性 化	市 民 の 広 場	近畿プロック運営研究会
4	月	総会 24日			異業種交流会	基本テーマ&概要決定 (拡大委員会・実行委員会)	定例委員会	
5	月	例会 22日					定例委員会	近プロック部会長会議 28日
6	月	例会 26日	『福居』 第50号発行	新入会員オリエンテーション シヨウ			再開発事業の先進地域視察	
7	月	例会 24日	『福居』 第51号発行		実践異業種交流会	定例委員会	定例委員会	
8	月	例会(ハートランド打合) 28日			拡大委員会 手順打合せ	街づくりアンケートの実施		
9	月	例会 25日 近畿プロック大会(高砂) 3日	『福居』 第52号発行		ハートランド(駅東大通り) 22日・23日	「市民の広場」フォーラム 開催		
10	月	例会 23日		レクリエーション大会	反省会 報告書作成	定例委員会		
11	月	松江全国大会 15~16日 例会 27日	『福居』 第53号発行		在日ビジネスマンとの 交流会	「市民の広場」フォーラム 報告書作成・提出		
12	月	市長と語る会・総会 11日		家族大会		定例委員会		
1	月	会頭と語る会 22日	『福居』 第54号発行			定例委員会		
2	月	例会 26日			海外視察予定	定例委員会		
3	月	卒業生を送る会 25日	『福居』 第55号発行			定例委員会		

リレー随筆

緑光る季節に

蓮花 慶子

三年ごしで悩まされてい
るアレルギー性鼻炎(いわ
ゆる花粉症)。今年は特に花
粉の量が多かったせいか、
ぐずぐずといつまでもすっ
きりしない季節を何とかの
り越え、セールスポイント
の自転車で風切る心地よい
日々がようやく戻ってきた。
緑まぶしく理由なく
心はずみ、鼻唄なんぞまじ
って、髪ふりみだし走る姿
は結構目立つらしく、心地
よいのは本人だけで時には
「異様だ」のレッテルを貼
られたりします。
自転車の魅力をひと言で
言えば、やはり「季節の風」
を全身で感じることででき
るから。(私のように即身体
に反応する人間は特別とし
ても)自転車を通して飛び
込んでくる風景、街にお
い、人の動き、緑の光線な

ど、その一瞬一瞬にふと解
放されたやすらぎを感じて
しまうのは、自転車がその
時々の季節の風をはらんで
くれるから。

私が駅東のケヤキ並木の
四〇〇m直線スペース(昨
年の「秋色・ときめき・ハ
ートランド」の会場デス)
に目をとめ、こだわったの
もそんなふとした日常の個
人的なリズムがあったから。
それに気づいた人は私一人
ではありませんでしたが、
でも、毎日のあわただしい、
何かいつも追いつめられて
る感じや車の視点からは決
して見つけられないものが、
個人の生活のスキマにたく
さんあふれていて、それを
惜しげもなくこぼれさせて
いる、そんな想いを感じて
いるのは私だけではないで
しょう。

子供の頃は目に触れるも
のすべてに活力があり、あ
らゆる好奇心で周囲の世界
を吸収し、自然も息吹いて
います。でも大人になると
何故かそれが簡単にはいか

なくなりません。見るものを
自分から限定することも、
意図的に見ないですませる
こともできるようになるか
ら。

でも子供の頃見つめてき
た無意識の想いが突然何か
のきっかけを通して目ざめ
る時、見慣れた街は突然新
しいワクワクするような空
間に変貌するのです。そん
な願いを込めて今日も自転
車を走らせることにします。
本屋の立読みで冒頭の言
葉が目焼きつき、現在手
元から離れない愛読書にな
ってしまった次の詩を最後
に……。

人と人は
おたがいのもつ思想の
あたたかみによって
つながっている

優れた思想には
かならず体温がある

それにあたたかみを
感じた時
私たちは
つながることができ

今回の執筆者は、よみが
えった福井のロビン・フッ
ド熊谷康心さんに!

三月度例会

卒業生を 送る会

平成三年三月二十八日、
「まんもと」において三月
度例会が開催されました。
竹越体制における「会員一
五〇人体制」を目標に、正
副会長をはじめ各委員会正
副委員長が会議所九部会の
議員企業中心に勧誘を行な
いました。青年部の活躍が
いろいろな所で、表面化し
てきたこともあり、前向き
なご返事が多かったよう
です。今後フォローを続け、
「人は街を作る、街は人を
作る」この様に会員増強を
図っていきます。

今回初めて平成二年度に
おいて活躍された方々に各
賞が送られました。会員委
員会企画によるユーモラス
な賞及び賞品には会場内盛

り上がっていました。
「卒業生を送る会」では
古川顧問、淡島相談役、永
井全国商青連理事より、黒
田軍治氏、五十嵐正光氏、
小林庄一氏の三名の青年部
におけるご活躍と紹介が行
なわれました。

卒業生の方々のコメント
にもありましたが、青年部
活動において一番の思い出
は、福井で行なわれた全国
大会の事でした。今までに
ない、すばらしい運営、企
画が今日の全国大会の礎に
なっていると他県からも耳
にいたします。三名の方々
がその中核となられ、大会
を見事に成功させられまし
た。他にも書ききれない実
績があります。今後三名の
方々は「あじさい会」の方
でますますのご活躍をされ
るそうです。先輩方の築か
れました青年部に恥じない
様、私達もがんばることで、
お礼と替えさせていただきます。
本場に長い間、ご苦労様
でした。

みなさんよろしく

—新入会員—

プロフィール

木村 治

S二四年九月六日生

(株)キムラフーズ

福井市大宮六一五

電話 二七一一二三〇

FAX 二七一一二三一

(業種) 食品加工販売業

善連 俊晴

S三八年九月一九日生

(株)アドジャパン

福井市御幸四一〇一七

電話 二一一八八一〇

FAX 二一一八八九九

(業種) 広告代理店業

永森 芳信

S二七年二月二五日生

(株)エーシン

福井市和田東町一三一九

電話 二七一二四六八

FAX 二七一〇二〇三

(業種) 不動産業

友田 行則

S三三年四月二一日生

友田商事(株)

福井市問屋四一二一四

電話 二七一二七六七

FAX 二七一二七六八

(業種) 婦人服卸業

寺井 信雄

S三〇年九月二六日生

福井山本(株)

福井市成和一一二二〇一

電話 二六一五〇六〇

FAX 二一一三四〇二

(業種) 繊維織物製造販売業

竹内 秀光

S二五年一月二五日生

中央協同(株)福井営業所

福井市大手三一四一九

(商工中金東邦生命ビル)

電話 二三二二〇九〇

FAX 八八一五一一六

(業種) 損害保険代理業

高間 貞行

S三七年四月二〇日生

(株)高間繁洋服店

福井市毛矢二一一七

電話 三五〇八五三

(業種) 紳士服小売業

角 義博

S二六年三月一八日生

益茂証券(株)

福井市中央三一五一

電話 二三二二八三〇

FAX 二一一九六六六

(業種) 証券業

酒井 清章

S三四年七月二二日生

酒井化学工業(株)

福井市今市六六一二八

電話 三八二二九一

FAX 三八二二七三

(業種) プラスチック製

造業

小笠 睦

S三五年八月一日生

(株)シュガーポット福井

福井市宝永三三四一六

(EMビル3F)

電話 二七一五六二〇

FAX 二一一五四五八

(業種) 広告企画制作業

市川 滋

S二七年六月二六日生

フォンテーヌ

福井市順化一七七一

(タイガビル)

電話 二二一四六四六
(業種) 飲食業

会員トピックス

〔社名変更〕

●石橋 正人

三和建材がアロック・サンワ株式会社

を設け、昨年から社内

活性化を図ってきた当社

は、五月二十一日に社名

を「アロック・サンワ」

に変更しました。

今後の行動指針である

Activity (積極)

Reliability (信頼)

Originality (信頼)

Originality (創造) Communication (対話)の頭文字をとってAROC (アロック)とし、「サンワ」の名称はそのまま残しました。また建材の領域にこだわらず、人をとりまく快適な空間を無限に広げながら、こころのゆとりを提

供しよりよい環境を追求していくという企業コンセプトを、Life Fitness Companyで表現しています。コーポレートマークは、企業理念を橋円でシンボライズし、「無限の広がり」「快適」をイメージさせるブルーと、「人と環境のあたたかな関係」を感じさせるレッドでカラーリングしました。

21世紀にむかい、お客様第一主義のマーケティング、組織の確立、企業イメージの刷新、事業の多角化を経営目標とし、「快適空間創造商社」をめざします。

〔新社屋落成〕

●真木 康至

(株)ニュー・フェイス

福井市問屋町三二二四

去る四月十五日鉄骨二階

建の新社屋が完成いたしました。広告代理店として、より一層の飛躍をめざしていきたいと思っています。